

羽幌町は

自立に向けた新たな取り組みをします

市町村合併については、地方分権時代の到来、少子高齢化の進展、国・地方の財政難、行政ニーズの高度化など、多様化する様々な課題への有効な手段として、全国各地で市町村合併が進められています。しかし日本の各地域は、気候風土、産業構造や人口の密集度合いなどが多種多様で、一律の方針を基本とする合併が地域の実態にそぐわない場合も存在するのが現状であり、改めて市町村合併の難しさが浮き彫りにされています。

合併協議会を解散しました

留萌中部3町村合併協議会は、11月10日に開催された協議会のなかで協議打ち切りが承認されたのを受け、羽幌町を含む3町村の議会の議決を経て、11月30日付けで正式に協議会を解散しています。

町では11月24日に、町政報告会を中央公民館で開催し、町長及び議長から、これまでの合併協議の経過と結果を町民の皆さまに報告しました。

合併に関する協議は、これまで任意協議会で5回、法定協議会で8回の計13回開催し、この間様々な案件が協議されました。その論議の過程で、各町村の合併に関する考え方や、将来に対する不安と期待が語られるうちに、この合併特例法そのものが、地域自らが発想し望んだものではないこともあり、地域ごとの現実に対する認識と、理想に対しての考え方の違いが鮮明になっていきました。

協議会の解散を決めた第8回合併協議会



単独で地域の発展を目指します

私たちは、地域に対する想い、目標は同じであつても現状や環境などの違いにより、求められるものや、手法が異なるのも、ある程度止むを得ないことと考えています。一方、将来の行政体制について、合併という手法が最も適切なものであると判断し、合併の道を選択した場合には、合併基本項目の合意もまた絶対に必要なことでもあります。したがって、現行法上

での合併を目指し、来年3月までに知事申請を行うためには、継続協議となつていた案件に対し、早急に考え方を一致させ、合意を得なければならず、十分な議論を尽くしお互いが納得のいく結論を得るためには、余りにも時間が不足しているという考えに達しました。また、議論を省略し、無理に協議案件を合意させるような拙速さは、将来に不満やしこりを残し、一体感の無い、地域間のいさかいが絶えない町になるのではないかと懸念もありました。

町村合併を強力に推進する政府の動きもあり、昨年6月の中部3

町村振興協議会の発足から、合併の是非を判断するための資料を住民の皆さまにお示しするため、多くの時間と労力を費やしてきましたが、前述の理由から、現段階では、羽幌町単独で地域の発展を目指すことが最も適切であると判断しました。

新たな取り組み

現在の厳しい社会情勢を考えると、羽幌町の財政状況が現行のまま進むとは、到底考え難く、自立に向けた新たな取り組みを模索していくこととなります。その中で、これまでの合併論議は、必ず生きてくるものであり、今後のまちづくりに反映させていかなければならないものであります。

次世代に私たちの想いを伝え、地方自治の本質である「心と心のふれあうまちづくり」を進めるためにも、皆さまと力を合わせながら、汗を流し、知恵を出し合い、努力していこうと思っております。で、町民の皆さまの深いご理解と、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

11月24日に行われた町政報告会

